

40. 解答：

- a. 誤：過誤腫の典型的マンモグラフィー像は円形～楕円形腫瘤で、境界明瞭平滑、辺縁に透過性のある薄い偽被膜をもち、内部に脂肪と軟部吸収値が混在している。
- b. 誤：乳腺症のマンモグラフィー所見は両側びまん性異常の場合と片側限局性の異常に分けられるが、片側限局性の場合には局所的非対称性陰影や構築の乱れとして観察されることが多い。
- c. 正：マンモグラフィー像の特徴として、大型腫瘤（3-4cm 以上）、円形～多角形～分葉状、境界明瞭、高濃度であり、悪性では急速増大する。平均 40 歳台発症。
- d. 誤：マンモグラフィー像は非特異的だが、境界が必ずしも明瞭でない、内部構造は不均一でしばしば正常乳腺に近い。比較的若年者に多く、背景乳腺濃度が高いため腫瘤像として認識しにくいものが多い。
- e. 正？：巨大線維腺腫(giant fibroadenoma)は直径 5cm 以上もしくは 500g 以上ある線維腺腫で、マンモグラフィー像は円形～分葉状、境界明瞭平滑である。若い女性の発症が多いため、本症例の年齢には合わないが、画像所見は合致し、他設問との比較で正解と思われる。

以上、解答 40 は白木法雄会員（名古屋市立大学大学院）